



「おはよー。」

「おいちゃん、おはよー」

「今日も寒いねー。」

「おはようございます。」

「はい、おはよう。
風邪ひいとらんねー。」

心通う「あいさつ」は、
人と人とをつなぐ心の架け橋。
相手を想うひと声が、あなたから地域へ広がって、
やがて福智を包む大きな輪となっていく。
絆やつながりを見失いがちな今、私たちにできること…

Let's begin
with your
greetings.

はじめの1歩は あなたのひと声

朝 7時45分、市場小学校への通学路で、子どもたちと民生委員の石元曙美さん(市場)が、今日もあいさつを交わします。「朝のあいさつはいいですね。気持ちがあすっきりとして元気になれます」と、笑顔をのぞかせる石元さんは、通勤時に交通量が多くなる市場駅の高架下で、ほぼ毎日小学生たちの登校指導をしています。

今回の東日本大震災でも示されたように、緊急時に最も力を発揮するのは、一番近くにある、地域の絆です。しかし、社会環境が変わり、隣人とのトラブルやプライバシーの問題が叫ばれ、人間関係の希薄化が課題となっている昨今、地域の絆はどうか、日常のあいさつの場すら減ってきたように思えます。「おはよう」「いってらっしゃい」「おかえりなさい」「ただいま」…。あいさつは人と人のふれあいや心の輪をつなぐ大事な手立てです。そのひと声からきっかけが生まれ、会話が始まり、地域の絆が育まれるのではないのでしょうか。

時 間や余裕が無い」「自分のことで精一杯」そんな思いで他人と距離を置きがちな現代。地域の活動やイベントへ足が進まず、せっかくの出会いやふれあいの場を逃していませんか。地域の絆には防災や防犯・介護・子育て・教育など、多くの

面で助け合える可能性があると考えれば、その心の持ち方も変わってくるはずですよ。

絆 やつながりは目には見えないものですが、日本を襲った未曾有の危機が、絆の持つ力を改めて教えてくれました。あの日から2年という月日が経った今、私たちにできること。それは失いかけている地域の絆を再生すること。一朝一夕でできるものではありませんが、まずその第一歩を踏み出してみませんか。人と人とのつながりを育む「あいさつ」を――。

福智町がひとつの家族へと

かつて炭坑長屋が広がっていた古き良き時代。別々の所帯でありながら、子育てや介護など困ったことがあれば、隣近所が親身になって相談に乗ってくれていました。しかし、現在全国的に助け合える環境が激減しています。人間同士の「つながり」や「絆」が無ければ、安全安心な地域社会とは言えません。「向こう三軒両隣」の精神が根付いていた時代の、相互扶助の関係を手本に、福智町をひとつの家族のような町にしていければと考えています。地域で見守り、気にかけるつながりや支え合いの体制を、ぜひみなさんの地域で作ってください。町はその仕組みづくりをしっかりと支えていきます。



福智町
浦田 弘二 町長